

経済港湾委員会行政調査報告

経済港湾委員会委員長 大かわら 鈴子

1. 日程および参加者

令和6年8月27日(火)~8月28日(水)

経済港湾委員会委員11名、事務局2名

2. 調査項目

- (1) さがみこベリーガーデンについて(株式会社さがみこファーム)
- (2) 大和市文化創造拠点シリウスについて(大和市)

3. 委員長所見

- (1) さがみこベリーガーデンについて(株式会社さがみこファーム)

さがみこベリーガーデンは、株式会社さがみこファームが運営する、相模原市の中山間地の耕作放棄地を利用した営農型太陽光発電のブルーベリー農園である。(2022年夏のプレオープン、2023年6月のグランドオープン)

今回の視察は天候に恵まれなかったが、それでも丁寧に車内においてご説明いただき、勉強させていただいたこと、まずお礼申し上げたい。

さがみこベリーガーデンで取り組まれているソーラーシェアリングは、営農を主体としながら同時に太陽光発電を行い、利用するというもので近年注目されている手法である。その用地についても耕作放棄地を利用されており、土地の再生につながる取組であることは重要であると考えます。

農業の収益化はなかなか難しいところであるが、現在ブルーベリーの栽培がやっと軌道に乗ってきたとのことであり、今後はキウイやぶどうの栽培も取り組まれるとのこと。こうした取組は、食料自給率の向上にも役立つものであるとも言える。

発電した電力については、その電力利用で地域とも連携されている。今後も再生可能エネルギーの比率を高めていきたいとのことで大いに期待される。

また、太陽光パネルの下は日陰になることから、特に近年の猛暑から、作物や作業をする農家の方を守るという視点もなるほどと納得したところである。

その他にも、就農体験や学校の探究学習なども積極的に受け入れられおり、こ

うした取組は、子ども達や若い人の就農の動機づけとして重要だと考える。

先方からは、専業で農業をすることに対する収入面の不安定さや継続の難しさといった就農に対する課題に対しては、売電収入という安定した収入があることが農業の定着率の向上に寄与するとも言えるため、行政の政策の中で、耕作放棄地対策や雇用創出、若者の就農支援という形で新しい農業を支援する政策として位置づけことも考えられる旨のご意見をいただいた。

神戸市でも、耕作放棄地や農家の人手不足、承継問題が深刻化しており対策が求められている。行政の支援の在り方として、このような新たな取り組みも参考に、柔軟に対応を検討していくことが大切だと考える。



(2) 大和市文化創造拠点シリウスについて (大和市)

シリウスは、市の図書館・芸術文化ホール・生涯学習センター・屋内子ども広場などの文化複合施設である(2016年11月開館)。開館から1年8か月あまりで500万人が、5年10か月で1500万人が来館していることから、市民にとって文化の拠点となっていることがうかがわれる。

館内では、図書をどこにでも持ち歩けることや、フロアごとにデザインを変えた約990席もの座席が用意されており、市民が読書しやすい工夫がされている。

また、飲食可能なスペースも設けられており、屋外で食事をしながらの読書も可能であり、仕事の昼休憩時に利用する市民も多いとのことで利用の自由度がかなり高いと言える。

一方、神戸市の図書館では、読書する座席が少ないと改善を求める声が聞かれる。このような自由に過ごせる空間や座席等が多く確保されれば、もっと利用し

やすくなるのではないか。

また、フロアごとにテーマを決め、選書などもされており、例えば、健康がテーマとなっているフロアでは、実際に血圧測定や、市民が中心となって健康に関する講座を開くなどの体験ができるようになっている。

他にも、レファレンス機能が充実していることも含めて、市民のニーズに答え、利便性の向上を中心に工夫されている点が多くうかがわれた。

なお来年度は、本施設の指定管理者の再公募の時期であり、プロポーザル方式での選定とのことだが、これらの取組の継続性の担保が必要であると感じたところである。

活字離れが言われる中でも、今回お聞きしたような工夫を凝らした取組や、市民が主体となって関わる企画など市民ニーズに合致する取組を強めることで、多くの市民に利用されていることは大いに参考になった。ぜひ神戸市でも市民に望まれる図書館、文化の拠点づくりの参考にしていきたい。

